

生活援助論演習Ⅱ

科目到達目標: ① 看護援助の思考プロセスを活用して生活援助が実施できる。
② 生活援助について看護援助のための基本的機能の視点から理解を深めることができる。

科目責任者(所属教室):奥田 玲子(基礎看護学) 連絡先:教員室 TEL:0859-38-6303 E-mail:reokd@tottori-u.ac.jp

[illegible]

回数	月日	時限	講義室	授業内容	担当者	講座・分野・診療科	到達目標	授業のキーワード
17	6/6(木)	1	実習室	排泄を促す技術 排尿・排便の生理的メカニズム 排尿・排便のニーズのアセスメント 床上排泄 / 持続的導尿 基本的な留意点	奥田 玲子 深田 美香 笠城 典子 藤原 由記子 山本 陽子	基礎看護学	・排尿と排便に関する生理学的メカニズムを理解する。 ・排泄のニーズに関するアセスメントの視点を理解する。 ・排泄のニーズの充足状態を対象者の情報からアセスメントし、必要な援助を判断する。 ・排泄にかかわる技術の基本的留意点をふまえ、対象者に応じた実施計画を立てる。 ・援助を実施・評価し、安全・安楽・自立性を考慮したよりよい援助方法を検討する。 ・事例における排泄の援助について基本的機能の視点から理解を深める。	排便・排尿のしくみ、 床上排泄、持続的導尿、 排泄のニーズ、情報のアセスメント、 必要な援助の判断、 援助の実施計画、 援助の実施・評価、 看護援助のための基本的機能 (環境整備、コミュニケーション、 ボディメカニクス、倫理、安全・安楽)
18		2						
19	6/13(木)	1	実習室	排泄を促す技術 床上排泄 事例を用いた援助				
20		2						
21	6/20(木)	1	実習室	排泄を促す技術 持続的導尿 事例を用いた援助				
22		2						
23	7/4(木)	1	112	安全を守る技術 日常生活の援助をするうえでの安全			・療養環境における安全を脅かす要因を理解する。 ・日常生活援助における主な医療事故とその予防策を理解する。	医療安全、安全を脅かす要因、 医療事故、事故予防策
24		2						
25	7/11(木)	1	122	統合技術演習 事例を用いた援助			・基本的ニーズの充足状態をアセスメントし、必要な援助を判断する。 ・対象者に応じた援助の実施計画を立てる。 ・援助を実施・評価し、安全・安楽・自立性を考慮したよりよい援助方法を検討する。 ・事例における日常生活の援助について基本的機能の視点から理解を深める。 ・基本的ニーズの関連性を情報のつながりから整理し、広い視野で対象者を捉え、援助の意図を明確にする。	日常生活(食事・排泄・衣服・活動・清潔)の 援助 基本的ニーズ、情報のアセスメント、 必要な援助の判断、 援助の実施計画、 援助の実施・評価、 看護援助のための基本的機能 (環境整備、コミュニケーション、 ボディメカニクス、倫理、安全・安楽)
26		2						
27	7/18(木)	1	実習室					
28		2						
29	7/25(木)	1	実習室					
30		2						

教育グランドデザインとの関連: 2、3、4、5、6、7

学位授与の方針との関連: 1、2、3、4

授業レベル: 2

評価: 小テスト30%・振り返りシート70%

実務経験との関連: 病院現場における看護実践の経験がある教員が、その経験を活かして指導する。

教科書: ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版

※到達目標・授業のキーワードを確認の上、予習・復習してください。